

友情の塔の日の会

平成30年9月26日（水）

昭和34年9月26日、東海地方を「伊勢湾台風」が襲い、全国で約5,000名の死者・行方不明者を出す大災害となりました。この名和地区も建物の損壊や多くの死者・行方不明者を出しました。子どもたちも被害者となり、名和小学校児童25名と上野中学校生徒4名が命を落としました。

この「友情の塔」は、亡くなった29名の慰霊塔として昭和36年9月25日に完成しました。その後、毎年9月26日には「この災害を忘れないように」「亡くなった29名が見守る中でなかよく、元気よく生活する」ということを願って、全校で集会を行っています。

今回は、昭和47年に名和小から分離独立した緑陽小学校5年生全児童と上野中学校を代表して上野校長先生が参列し、亡くなった29名に哀悼の意を表してくれました。



みんなで黙祷をし、哀悼の意を表しました



献花：29名が安らかに眠れますように



児童会長あいさつ
(早川航史さん)



緑陽小代表児童



当時の様子を
話される小島さん



校長先生のお話



全児童で作った作品を供える

児童会の約束

- 私たち名和小児童は、伊勢湾台風で亡くなった先輩たちの冥福をお祈りするとともに、災害のない町づくりを考えます。
- みんなが元気で明るく、なかよく生活をします。
- 苦しいことに負けない強い心を養います。

友情の誓い

「私たちは、みんななかよく、助け合って、励まし合って生活することを誓います。」